

## 『モモ』 ～翔南なくなるの part2～

令和4年6月17日(金)

校長 南波 聡

日曜日の夜、自宅の駐車場で愛車の側面を擦ってしまい、翌々日の雨の中ある整備工場を訪れました。

翔南高校の校長と知った社長から一言。「翔南高校は今年の一年生が最後で、来年は募集せんとでしよ」。

作家、ミヒヤエル・エンデの『モモ』に登場する時間泥棒たちはセールスマンのような姿で近寄り、「あなたがあの孤独なおばあさんに使っている時間は無駄です。やめて、その時間を私たちの時間銀行に預けなさい」と、巧みに心を揺さぶり時間を集めていきます。無駄な時間とは他人のために費やす時間やお金にならない時間。友と遊んで語る時間や景色をぼんやりと眺める時間もありました。セールスマンたちは預かった時間を自分たちで使ってしまうのです。

『モモ』は、時間泥棒の言葉のからくり気づき、盗まれた時間を時間泥棒から取り戻していきます。

さて、島原翔南高校には「時間泥棒」が「無駄な時間だよ」と囁くような時間がたくさんあります。「その時間は受験に役立つの?」、「資格取れるの?」、「なんか得?」等等。

宣言します! 「No problem」、「翔南にある時間は、幸せを築くためにいつまでも心の奥底に深く刻まれる時間、たくさんの『モモ』たちが躍動しています」。

「翔南高校は来年も募集します。新聞にも掲載されていますよ」と伝えた時に返ってきた【優しい笑顔】の一瞬。時間泥棒には決して預けない、幸せが芽生える大切な時間でした。